

当資料は、9月11日、文部科学記者会、科学記者会、経済産業記者会、エネルギー記者会の加盟社の皆様にご案内させて頂いております。

2008年9月11日

報道関係各位

財団法人服部報公会

## 2008年(第78回) 服部報公会「報公賞」が決定

広島大学大学院 先端物質科学研究科 教授

三浦 道子 氏

「デバイス物理の解明とこのモデル化」

～産業機器の低消費電力化に貢献する基礎技術を開発～

1930年(昭和5年)に公益事業法人として設立された財団法人服部報公会(理事長:菅野卓雄)は、活動の一環として、工学に関する優秀な研究成果を挙げた者に対して服部報公会「報公賞」を授与しております。

このたび本年度の公募を行い厳正な審査を経て、2008年度の報公賞に、広島大学大学院先端物質科学研究科 教授 三浦道子氏の研究「デバイス物理の解明とこのモデル化」を選定いたしました。

三浦氏のこの研究は、現代の半導体産業から強く望まれている高精度かつ高速度の半導体シミュレータ開発についての学術的な先鞭をつけただけでなく、日本発信の国際標準への寄与という意味で国際社会における日本の半導体産業の存在感をあらためて示すことにつながるもので、その功績を高く評価し、「報公賞」の授賞を決定いたしました。

LSI(大規模集積回路)に対応する高精度な回路シミュレーションの研究・開発は、情報家電や自動車などの産業機器の低消費電力化に必須の技術です。三浦氏は当分野で産官学の連携を積極的に推し進めるなど、長年この課題に取り組んできました。また、1931年に第1回の授賞が行われた「報公賞」の長い歴史の中で、女性研究者の受賞は、第42回(1972年)の望月和子氏以来、36年ぶり二人目の受賞となります。

三浦氏は、1998年から、STARC(半導体理工学研究センター)とともに、経済産業省/NEDO技術開発機構(\*1)の支援のもと、半導体開発段階での動作を推測する回路設計用トランジスタモデル「HiSIM(Hiroshima university STARC IGFEET Model)」の開発に携わり、これを応用して開発した高耐圧トランジスタモデル「HiSIM\_HV」は、2007年12月、我が国で開発されたモデルとして初めて、国際標準化機関 CMC(Compact Model Council)の国際標準モデル候補に選定されました。同モデルは国際標準モデルとして今後一般公開される予定で、これは、産官学連携によって生まれた回路設計用トランジスタモデルが、世界で認知されたという日本初の快挙でもあります。

\*1:「NEDO 技術開発機構」は、「独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構」の略称です。

本モデルを使用することで、半導体回路シミュレーションの精度が向上し、たとえば、情報家電等に用いられている高耐圧トランジスタ搭載の半導体 LSI の設計最適化が可能になり、消費電力削減効果等が期待されます。

なお、「服部報公会 報公賞」の贈呈式は、来る10月9日(木)午後4時より、日本工業倶楽部(千代田区丸の内)で行われる予定で、賞状並びに賞金500万円が贈呈されます。また、「報公賞」と同時に、本年度の「工学研究奨励援助」として、10件の研究に対し総額1,000万円が贈られます。

財団法人服部報公会は、1931年(昭和6年)の第1回目の報公賞より2007年に至るまでに報公賞103件118名、工学研究奨励援助金2,815件を贈呈して参りました。

#### 本件に関するお問合せ先

財団法人服部報公会 担当:塚原  
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-16  
TEL.03-3564-4822/FAX.03-3561-7505

共同ピーアール(株) 担当:市川、牧、林  
TEL.03-3571-5365/FAX.03-3569-0862